



果実とやすらぎの里・北海道仁木町

Niki 議会だより にき

no.105

今年の予算
強い農業づくりで町を豊かに

CONTENTS

ことしの仕事ピックアップ	6
第1回定例会 町内10施設の指定管理者を指定	10
町政のそこが聞きたい！一般質問 4人の議員が登壇	14
初の議会報告会を開催 町民に身近な議会を目指して	20



～家族のつながり～

春が来た！お花がいっぱい咲いたよ！（関連記事24ページ）

経済や雇用に大きな役割を担う農業

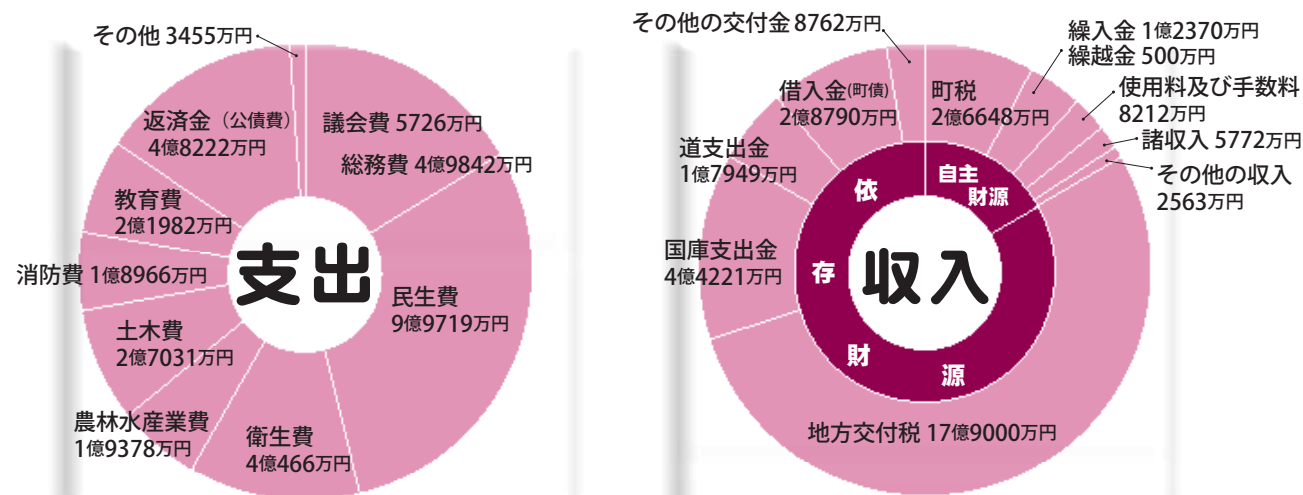
強い農業づくりで町を豊かに

第1回定例会は、3月10日に開会し、3月19日閉会しました。

町から当初予算、補正予算、財産取得、条例制定・改正、指定管理者、協定変更、規約変更、人事案件が上程され、すべての議案を可決しました。（当初予算、条例制定・改正、指定管理者の15議案は、予算委員会で審査し、最終日の本会議で可決）

また、委員会提出議案として1件の条例改正、議員提出議案として5件の意見書を提出し、すべての議案を可決しました。

一般質問では4名の議員が登壇し、考えを問いただきました。



当初予算

◇一般会計
前年度対比6・5%減
の総額33億4787万1000円とする当初予算が提案され、討論・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

◇国保特別会計
前年度対比0・2%減
の総額2億4271万5000円とする当初予算が提案され、討論・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

◇簡水特別会計
前年度対比9・6%減
の総額3億7666万8000円とする当初予算が提案され、討論・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

◇後期医療特別会計
前年度対比1・0%減
の総額6323万6000円とする当初予算が提案され、討論・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

一般会計 予算の概要

収入（歳入）の大きな柱である地方交付税は、前年度対比2000万円減の17億9000万円を見込み、収入全体の53・4%を占めています。

一方、町税などの自主財源は5億6065万円と、収入全体の16・7%にとどまり、うち1億2370万円は、貯金（基金）を取り崩し、繰り入れています。

支出（歳出）は、前年度対比6・5%減の予算規模となり、消防費は防災用備蓄庫建設工事及び防災行政無線整備工事が完了したことにより、前年度対比66・4%減と、大幅減となりました。

また、大江地区コミセン建設事業が今年度着工することに伴い、民生費は前年度対比34・2%増となりました。

農林水産業費は、前年度に引き続き、施設園芸ハウス導入事業など、強い農業づくりを支援する予算となっています。

一般会計

33億4787万円

2億4271万円

3億7666万円

6323万円

特別会計

国民健康保険事業
簡易水道事業
後期高齢者医療



町政執行方針

地方創生の推進に取り組む



佐藤町長は、平成27年度町政執行方針において「本町は、少子高齢化や人口流出が進み、基幹産業の農業が衰退するなど極めて厳しい状態が続いています。人口減少の克服、地方創生の推進は待ったなしの課題であり、政府の取り組みと十分連携し、自らの地域の将来は自らが決めるという決意を新たに創意工夫し、全力でこの課題解決に向け取り組みます」と述べました。

安心 誰もが安心して笑顔で暮らせるまちづくり

住み慣れた地域の中で、家庭や友人などとの温かい絆を保ちながらすべての人々が家庭や地域の中で自立した安心のある生活が送れるよう、共に支え、共に生きる福祉社会の実現に努めます。

潤い やすらぎと潤いのあるまちづくり

道路・河川・水道の整備と維持管理及び雪対策などを通じて、町民の安全・安心で快適な生活を守ります。

活力 豊かで活力あるまちづくり

豊かで活力ある仁木町農業の実現に向け、ミニトマト、桜桃、ブドウ、水稲など、本町の誇る農産物を武器に、農業者・関係機関はもとより多様な企業とも連携し、強い農業づくりに邁進します。

協働 持続可能な行財政運営と協働のまちづくり

地方分権型社会に対応した広域行政を推進していくためにも、周辺市町村との役割分担を明確にしながら相互の連携を強め、地域の特色や実情に応じた取組みに努めます。



安心
潤い
協働
活力



角谷教育長は、平成27年度教育行政執行方針において「仁木に生まれて良かった、育って良かったと誰もが思える町にするため、心豊かに学び育むまちづくり及び学校教育と生涯学習の一層の連携のもと、取組みの方向と具体的な施策を定めました。子どもからお年寄りまで、町民が果実とやすらぎの里に生きる喜びを実感し、心豊かにそれぞれの場面で学びが保証され、信頼される教育行政を執行します」と述べました。

学び 心豊かに学び育むまちづくり

すべての町民が主人公として、お互いに関わり合いながら、心豊かに学び続ける生涯学習環境の充実を図るとともに、未来を拓く子どもたちを学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、協働による教育行政を推進します。

学校教育 6つの重点

- 1 挨拶の励行
- 2 確かな学力の向上
- 3 豊かな心の育成
- 4 健やかな体の育成
- 5 信頼される学校づくり
- 6 安全・安心な学校・地域づくり

生涯学習 4つの重点

- 1 第7期社会教育中期計画3年次目の事業推進
- 2 文化活動の推進
- 3 スポーツ活動の推進・充実
- 4 社会教育施設の有効利用



【活力】施設園芸ハウス導入助成

昨年度に引き続き平成28年度までの3か年事業として実施します。

ミニトマトなど施設園芸の生産拡大を目指す農業者を支援するため、ハウス資材の購入に対し補助します。



2000万円

【活力】研修受入農家謝礼制度

指導農業者など先進的な農業者が、農業体験や農業研修のため、新規就農希望者を受け入れた場合、その指導に対する謝礼を交付するための制度を創設します。

30万円



91万円

本町の農産物や加工品などの特産品を全国に広くPRするとともに、寄附者に対して感謝の意を表するため、ふるさと納税にかけた返礼品贈呈事業を本年度から本格的に取り組めます。

【活力】返礼品贈呈（ふるさと納税）

【活力】地域おこし協力隊

地域協力活動に従事する地域おこし協力隊を4月から募集し、7月から活動可能となるよう、関係機関と調整しながら取り組みます。

1145万円

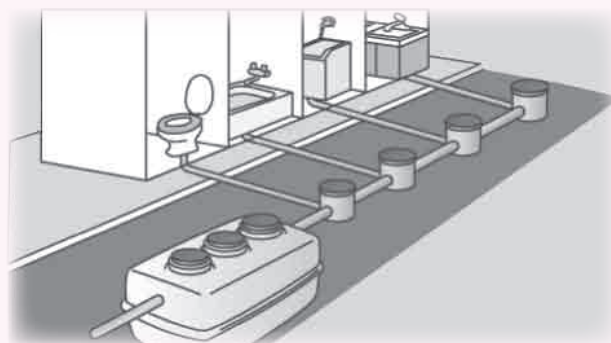


354万円

持続可能な公共交通の実現を目指し、交通空白地域とされる区域内の移動支援について現況実態把握調査を実施します。また、新たな公共交通体系の方針を整理し計画策定など具体的に検討します。

【潤い】地域公共交通網形成計画

【潤い】浄化槽設置助成



快適で衛生的な生活環境の確保と河川の水質保全のため、個人設置・個人管理による合併処理浄化槽の設置に対し助成します。

2422万円

ことしの仕事ピックアップ



368万円

母子保健では、妊婦健診、乳幼児健診を実施します。また、母子栄養食品を支給するとともに、助産師等の専門的な職種を活用した離乳食教室、母親学級、ベビーマッサージ教室、すくすく広場、保健師等による訪問活動を引き続き実施します。

【安心】児童環境づくり基盤整備等



203万円

災害発生時の避難施設等に必要となる投光器や暖房器具などの防災資機材や備蓄食料を購入します。

【安心】防災資機材等購入

【安心】ぬくもり灯油助成

冬期間の生活を支援するため、低所得者世帯に対し1万円を助成します。

235万円

【安心】大江地区コミュニティセンター建設



2億9529万円

大江地区の地域活動拠点施設として、保育所及び防災備蓄倉庫を併設した複合施設を建設します。

本年度は本体工事を実施し、平成28年4月の供用開始を予定しています。外構工事等は、平成28年度に実施する予定です。

皆さんの税金

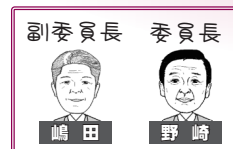
新年度予算の使い道

予算等審査

平成27年度当初予算及び予算関係議案並びに指定管理者の指定議案は、議長を除く議員8名による各会計予算特別委員会を設置し、延べ4日間にわたり審査を行いました。予算は、町の1年間の収入と支出の見積もりであると同時に、町民に対してどれほどの租税公課を義務付け、また、どんな行政サービスを行うかを約束するものです。ここでは、委員会で行われた質疑を要約して掲載します。

一般会計及び特別会計の当初予算案、指定管理者の指定議案、当初予算関連議案は、議長を除いた議員8名による各会計予算特別委員会（野崎委員長・嶋田副委員長）が設置され、これに付託し、審査を行いました。質疑終了後、議案ごとに討論・採決を行った結果、すべての予算案を全員賛成で「可決すべきもの」と決定したことから、最終日の本会議において、野崎委員長から委員会報告が行われました。

予算委員会の概要



敬老会開催方法

住吉 今年度の敬老会の開催方法は、昨年度と同様なのか。

住民課長 昨年度は、町制施行50周年だったことから、全町の75歳以上の方を対象に、一堂に会して開催した。

敬老会終了後に、各地域の関係者から聞き取りを行った結果、全体的に高齢化が進み、できれば町で開催してほしいという話であることから、昨年度と同様に開催する。

町有林の植林計画

大野 今年度は、どのくらいの植林を計画しているのか。

総務課長 今年度は、昨年度伐採した2・6畝に幅2mと2・5m、1畝当たり2000本を植える計画である。

観光PRの充実

上村 観光協会事務局は観光管理センターに移ることから、観光PRを充実させてほしいが、観光協会と協議しているのか。

企画課長 観光管理センターを主会場として、仁木マルシェ（仮称）というイベントを週1〜2回開催する方向で協議を進めている。

町道維持管理

横関 町道の維持管理について、いつまでも建設課の職員だけの対応は難しいと考えるが、将来的な部分にはどう考えているのか。

建設課長 現在の職員体制で、すべての道路をパトロールし、更にはゴミや落ち葉等を片付けることについて、手が回らない状況が多々あるのも承知している。ご指摘のとおり、将来

乳幼児医療費の無償化

上村 乳幼児医療費を補助する町村が増えてきており、医療費の無償化が切実に求められているからこそ考えるが、本町で補助する考えは。

町長 他町村と同様に小中学生の医療費を補助する制度を作りたいという気持ちはあるが、今の限られた予算の中では難しい。

有害鳥獣対策

宮本 シカの被害対策について、ある一定期間の狩猟期間を決めて一斉に駆除してもらうような考えは。

農政課長 昨年度、鳥獣被害対策実施隊が一斉駆除の日を2日間設けて実施している。今年度以降も、一斉駆除の日を設けながら被害防止に向け、対策を講じる。

職員の人事評価

嶋田 今年度から人事評価を導入するとのことであるが、どのような方法で査定しているのか。

また、評価は誰が行うのか。
総務課長 今年度は試行期間とし、本格運用は来年度以降を考えている。人事評価は、職員の働きぶりを評価するもので能力評価と業績評価からできており、評価結果は昇進や給与決定などの人事管理に活用されるものである。
また、評価は、一般職員は管理職である上司が査定し、管理職は副町長が査定を行う。

ふるさと納税返礼品

林 ふるさと納税の返礼品は、どのくらいの金額のものを返礼に充てるのか。

企画課長 約40%を返礼に充てることで考えている。返礼品として、本町の果物や加工品等をラインナップし、その中から選んでいただくシステムとする。

国保税の基金積立

上村 今年度は、基金から繰入し予算を組んでおり、医療費が少なくなり、また、返還金が多くなると基金への積立も増えるが、今後において国保税が引き下げになることも考えられるが、どうなのか。

ほけん課長 返還金が発生した年度もあるが、追加納付している年度もあった。大きな手術をする方が

何人もいた場合、医療費が大幅に上がってしまう、国保会計が厳しくなったことから、国保税を引上げた経過がある。積立てをしておくことにより、追加納付が発生した場合に対応できること、一般会計からの繰入状態が続けば国保税の引上げも考えなければならぬことから、基金に積立てをしている。

準要保護児童就学援助

上村 準要保護児童の就学援助について、入学準備金は入学前に支給されるものと考えているが、これはいつ支給しているのか。

教育次長 昨年度は6月上旬に支給しているが、もう少し早く支給できるように検討していく。



一堂に会して開催された平成26年度敬老会（町民センター）



観光協会が指定管理者となった観光管理センター（北町8丁目）

地域活性化・地域住民生活等緊急交付金

競争力のあるミニトマト 産地づくり支援事業を実施

平成26年度会計 補正の結果

補正額	予算総額
・一般会計（7回目の補正） 1億92万5000円減	35億1570万8000円
・一般会計（8回目の補正） 4040万円増	35億5610万8000円
・国民健康保険事業特別会計（4回目の補正） 935万5000円増	2億9932万2000円
・簡易水道事業特別会計（4回目の補正） 1712万9000円減	3億9404万9000円

◇一般会計（第6号）
一般会計予算は、地域活性化・地域住民生活等緊急交付金事業（地域消費喚起・生活支援型及び地方創生先行型）による増額補正が提案され、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

◇簡水特会（第4号）
簡易水道事業特別会計予算は、施設整備事業費及び配水管移設事業費の執行残等による減額補正が提案され、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

◇一般会計（第5号）
一般会計予算は、合併処理浄化槽、防災無線整備事業及び防災用備蓄庫整備事業の執行残等による減額補正が提案され、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

◇国保特会（第4号）
国民健康保険事業特別会計予算は、国民健康保険財政調整基金への積立て等による増額補正が提案され、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

補正予算

国保財政調整基金に
4947万円積立て

フルーツパークの管理者が変わりました

指定管理者に(株)ムーン企画を指定



うまいもんじゃ祭り（農村公園フルーツパークにき）

観光協会事務所 → 観光センターに移転

施設名	指定管理者
高齢者福祉施設（いきいき88）	東京美装北海道株式会社
大江へき地保育所	大江へき地保育所父母会
銀山へき地保育所	銀山へき地保育所父母会
然別生活館	然別町内会
大江生活改善センター	大江連合町内会
銀山生活改善センター	銀山さわやか福祉NPO
銀山老人憩の家	銀山さわやか福祉NPO
山村開発センター	東京美装北海道株式会社
農村公園フルーツパークにき	株式会社ムーン企画
観光農園等管理施設（観光センター）	仁木町観光協会

指定管理者 町内10施設の指定管理者を指定

町内施設の指定管理者を指定する議案が提案され、審議・採決の結果、

全ての議案を**全員賛成で可決**しました。
なお、指定期間は、平成27年4月1日から3年間ですが、大江へき地保育所と大江生活改善センターの指定期間は、1年間となります。



佐藤町長の
行政報告
administrative report

JRに相談「駅舎を町民交流の場にしたい」
仁木駅を子どもたちの居場所や高齢者が集う場所として考えていることから、JR北海道本社を訪問し、駅舎の譲渡について相談しました。
JR北海道本社担当からは、「譲渡に向けての条件整理など、前向きに検討していく」との回答をいただきましたので、仁木駅の譲渡について、協議を進めていきます。

小樽協会病院の産婦人科医師確保を要望

小樽協会病院は、昨年11月に産科の分娩予約を休止し、小樽・北後志地域で分娩可能な医療機関は、小樽レディースクリニックのみとなっていました。同病院は、北海道の周産期母子医療センターにも指定され、危険を伴う分娩を含め、年間約400件の分娩を取り扱っています。
本年1月、私は北後志の町村長と市橋道議会議員とともに道庁を訪れ、道に対し同病院が早期に分娩受付及び地域周産期母子医療センターを再開できるよう、医師確保等を要望してきました。
今後周産期医療体制の確保に向け、関係市町村とともに要請活動を行っていきます。

◆介護保険料5343円に統一設定

後志広域連合では、第6期介護保険事業計画を策定しました。
本計画の中で、介護保険料は統一保険料を設定することになり、保険料は5343円に設定されました。

地域支援・生活支援事業

支援サービス利用料を引下げ

事業名	利用料		
	単位	改定前	改定後
軽度生活支援	1時間未満	300円	290円
生きがい活動支援通所	1回	520円	410円
生活管理指導	1日	450円	430円
外出支援サービス	片道	300円	290円
除雪サービス	1回	300円	290円
通所型介護予防	1回	520円	410円



輪投げをしながらいっしょにで回らん（デイサービスセンターえんれいそう）

条例改正

地域支援事業及び生活支援事業条例の一部改正が提案され、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

主な内容は、介護報酬の改定に伴い、介護報酬を基に設定している利用料を改定するものです。

国・政府等への意見書

小樽・北後志の周産期医療体制維持を要望

意見書

▼小樽・北後志地域における周産期医療体制の維持に関する意見書

提出議員 野崎 明廣
賛成議員 上村智恵子

小樽・北後志地域にとって「安心して子どもを産み育てる環境」の確保は、地域社会存続の基盤であり、小樽協会の周産期医療体制の維持は地域住民の願いであることから、小樽協会の周産期医療体制存続のため、産婦人科医師の確保などを要望するもので、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**し、北海道に提出しました。

その他の意見書

▼ドクターヘリの安定的な事業継続に対する支援を求める意見書

提出議員 住吉 英子
賛成議員 野崎 明廣
全員賛成で可決

▼農業の発展に必要な生産基盤整備の拡充を求める意見書

提出議員 住吉 英子
賛成議員 野崎 明廣
全員賛成で可決

▼「核兵器のない世界に向けた法的枠組み」構築への取組みを求める意見書

提出議員 住吉 英子
賛成議員 大野 雅義
全員賛成で可決

▼ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書

提出議員 住吉 英子
賛成議員 大野 雅義
全員賛成で可決



学校・保護者・地域社会・関係団体で連携

いじめ防止条例を制定

条例制定

いじめ根絶に向けた取組を町全体で推進

子どものいじめ防止条例が提案され、審議・採決の結果、**全員賛成で可決**しました。

この条例は、国のいじめ防止対策推進法に基づき、基本理念や責務を定め、学校・保護者・地域社会及び関係団体等が連携し共通認識の下、いじめの根絶に向けた取組みを一体となつて進めるため、制定するものです。



その他の条例

◇地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
全員賛成で可決

◇教育委員会教育長の勤務時間、休日、休暇等及び職務専念義務の特例に関する条例の制定
全員賛成で可決

◇表彰条例の一部改正
全員賛成で可決

◇行政手続条例の一部改正
全員賛成で可決

◇重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部改正
全員賛成で可決

◇議会委員会条例の一部改正
全員賛成で可決

財産取得

▼旧仁木商業高校 教員住宅等及び工作物
取得の相手方 北海道教育委員会
取得金額 1292万6520円
全員賛成で可決

その他の議案

◇定住自立圏の形成に関する協定の一部変更
全員賛成で可決

◇後志広域連合規約を変更するための協議
全員賛成で可決

契約変更

▼防災行政無線整備工事
変更事項 契約金額
変更後金額 2億5223万4000円
全員賛成で可決

町政のそこが聞きたい

一般質問

第1回定例会の一般質問には、4人の議員が登壇しました。
紙面の都合により、内容を要約してお知らせします。



野崎 明廣 議員
公共施設の今後について 15

嶋田 茂 議員

- 1 我が町の人口減少に
対する施策について 16
- 2 健康な町づくりについて 17



住吉 英子 議員
地域おこし協力隊制度の活用について 18



上村 智恵子 議員
これからの介護保険事業について 19

一般質問とは

一般質問とは、議員が町政全般にわたり、執行機関に対して事務の執行状況及び将来に対する方針等について所信をただし、あるいは報告、説明を求め、又は疑問をたずさずすることです。
本町議会の一般質問は、回数制限及び時間制限を無制限で行っています。

町内施設の早急な老朽化対策を

町長 公共施設等総合管理計画を策定する

山生活改善センター、銀山へき地保育所の3施設も近い将来、耐用年数を迎え、更新しなければならぬと考える。建築から40年を経過した施設を維持・管理するには、経費増大が必至であることから、早急に検討する必要があると考え、町長の見解は。

あることから、早急に検討する必要があると考え、町長の見解は。

町長

然別生活館、銀山生活改善センター、銀山へき地保育所は、必要に応じて増築、改修及び修繕を行いながら機能維持に努めてきた。

老朽化した施設の維持管理には、多大な経費がかかることから、今後の公共施設の管理を行う指針として、総務大臣が地方自治体に対し、**公共施設等総合管理計画**の策定を要請している。本町としても、今後の人口推計に基づき、長期

的視点に立った老朽化対策の推進を図っていくため、計画策定に向け取り組んでいく。

野崎

築40年以上も経過している建物は、今後の方策を早急に打ち出すべきと考え、町長の見解は。

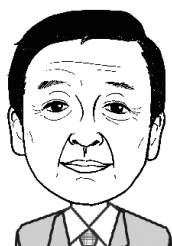
町長

教育行政執行方針にも掲げていたが、今後、小・中学校が一緒になる可能性も考えられることから、

まずは町のビジョンを構築していかなければならないと考える。

今後、小中一貫校となった場合、空いた施設の活用について、地域住民の皆さんとともに考えていく。

また、施設の建設は、将来的に町や町民にとっても負担となることが考えられることから、今後じっくりと時間をかけてつても、期間を決めて慎重に町民の皆さんとともに検討していく。

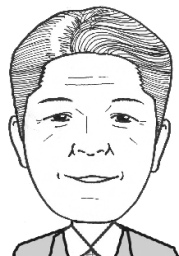


野崎 明廣 議員

銀山生活改善センター、然別生活館、大江へき地保育所、大江生活改善センター、銀山へき地保育所の5施設は建築から40年を経過しており、施設の老朽化が進んでいる。そのうち、大江生活改善センター及び大江へき地保育所は、平成27年度に複合施設として新設されるが、然別生活館、銀



建築から40年を経過した銀山生活改善センター（銀山地区）



嶋田 茂 議員

「定住したい町」への政策は

町長 雇用の確保、子育て環境の充実が必要

嶋田

日本創成会議において、2040年までに20〜39歳の女性人口が50%以下に減少し、人口1万人以下となる自治体は消滅の可能性が高いという衝撃的な発表があった。

本町の人口は年々減少傾向にあり、このまま推移すると、本町の未来はないと考える。

北海道厚真町では人口減少に歯止めをかけるため、人材誘導定住化促進方針を策定し対策を講じているが、本町は人口減少の問題に対する施策が

他の自治体に比べ、かなり遅れていると考える。

人口減少に歯止めをかけ、定住したいと思ってもらえる町にするため、どのような政策を打ち出していくのか。

町長

第5期総合計画において、町民参加型のまちづくりを推進するとともに、産業の活性化、インフラ整備を行い、新たな町民、転入者の受入れも強化するとしていることから、人口増加を図るには第1に雇用の場の確保、次に

子育て環境の充実が必要と考えている。

まずは雇用の場の確保が重要と考え、新規就農者やワイナリー等に進出する企業に対する支援、観光などの交流人口の増加や企業の誘致、関連産業の活性化を図る。

また、本町の人口減少の大きな要因として、出生数の減少と死亡者数の増加による自然減の影響が大きいことから、出生数の上昇に繋がる施策に取組むことが効果的と考ええる。

嶋田

本町は、受入体制が整っていない。土地もあるし、農業を教える人もいる。しかし、いざ来てみたら住むところがない。農業関係だけといったら語弊があるかもしれないが、現状は住居がネックとなっていることから一戸建ての住宅をシェアハウスにして、住居を確保する考えはどうか。

町長

シェアハウスは考えていないが、民間企業に集合住宅を建てていただき、そのうちの何戸かを町で保有するというような方法を検討中である。

嶋田

町長には、本町の人口減少問題を、喫緊の課題として考えていただきたい。

町長

地方創生では5年間の中で政策を打ち出すことを求められているが、私は早急にできることから取り組んでいく。人口減少に歯止めをかけるという部分では、この町に人を呼び込み、様々な対策を打ち出していく。

生きがいを楽しめるまちづくりを

町長 高齢者がふれあえる憩いの場を検討中

嶋田

我が国の平均寿命は世界でも高水準に達し、本町においてもがんや循環器疾患などの生活習慣病の増加、また、高齢化が進む中、医療、介護に係る費用負担の増大が深刻な問題となっている。

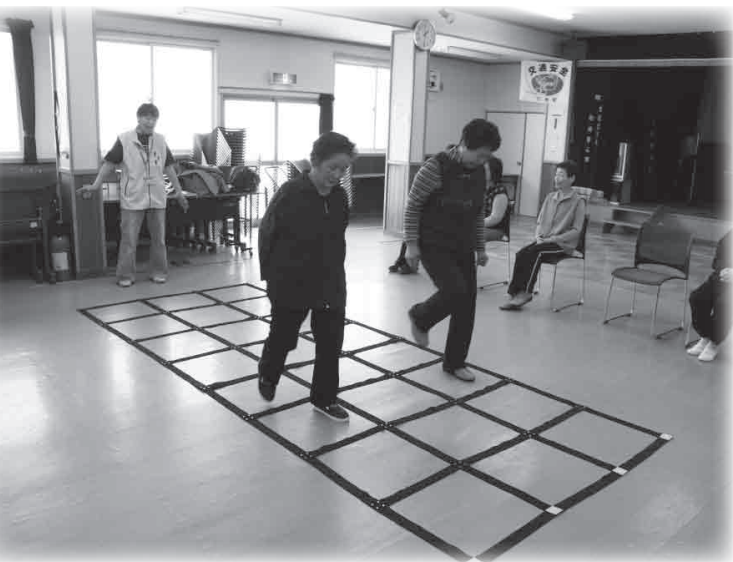
①本町では昨年、国民健康保険税を増額し、町民に負担を強い経緯がある。町としても、町民の主體的な健康づくりを支援しているが、健康で暮らせるまちづくりをどのように考えているのか。
②本町を「健康推進のまち」「食育推進のまち」として、施策に取組む考えは。

町長

①健康な生活を送りたい、住み慣れた町で心豊かに生活を送りたいと思うすべての町民の願いを実現させるため、第2期健康

づくり計画に基づき、各世代別に生活習慣病予防に視点を置いた項目を定め、健康づくりを推進している。

健康で暮らせるまちづ



ふまねっと運動（然別生活館）

くりを推進することにより、一人ひとりの健康増進だけにとどまらず、生活の安定化や医療保険制度の安定化につながり、健やかな暮らしを支える社会の実現が図れるものと考えている。

②各種がん検診や特定健診の推進、保健師や管理栄養士による健康教育や栄養指導、健康運動指導士による健康運動教室の開催、更に気軽に運動できる環境づくりなど、町民の健康増進に努める。

また、食に関する知識や食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることも重要と考え、学校教育

嶋田

健康で毎日過ごすために、生きがいが必要であると考える。

70代、80代になっても生きがいがあることにより、元気に過ごすことができると思う。生きがいを楽しめるまちづくりが必要と考えるが、町長の見解は。

町長

高齢者の方々がふれあえる場所として、JＲ北海道の駅舎を利用し、駅舎を憩いの場としたい考えを持っている。

また、家庭菜園で作ったものを販売できるような場所を作り、そしてそれが収入になり、その収入でまた何か新しいことなど、良い循環を生むようなシステムづくりを構築していきたい。



おともだちとお風ごはん（銀山へき地保育所）



特公賃住宅はたる4（銀山地区）



住吉 英子 議員

住吉

我が国の人口は減少局面に入っており、若者の地方からの流出と東京圏への一極集中が進み、人口の集中度は諸外国に比べ圧倒的に高くなっている。

このままでは人口減少を契機に、地域の様々な社会基盤の維持は、困難な状況に陥ると考える。

今年度の執行方針で、地域協力活動に従事する地域おこし協力隊を本年4月から募集し、関係機関と調整しながら取り組むとのことであるが、町

としてどのように活用していくのか。

町長

地域おこし協力隊の具体的な活動内容は、都市との交流事業、農産物のブランド化事業への応援、農村景観や環境保全に関する取り組み、新規就農希望者の定着支援等の活動、住民の生活支援、高齢者等の見守りサービス、健康づくり支援、地域の活性化対策に対する積極的な貢献を想定している。また、隊員には活動期

地域おこし隊の定住促進施策を

町長 定住したいと思える環境整備に取り組む



ニキボーの隊になに？

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取り組みです。

具体的には、地方自治体が都市住民を受入れ、地域おこし協力隊員として委嘱し、一定期間以上、各種地域協力活動に従事してもらいながら、当該地域への定住・定着を図っていくものです。

住吉

隊員の約6割が定住している一方で、なじめないまま離れる人もいる。受入側は地元の魅力を十分に伝え、定住に結び付ける努力が必要と考える。

間終了後も定住していただき、地域の担い手として活動し、本町の地域活性化とまちづくりに寄与していただけるものと期待している。

例えば、定住支援コー

ディネーターの配置や隊員からの生活相談等に応じるワンストップ窓口の設置、また、周辺自治体と連携し、隊員同士が情報交換できる場を設ける必要があると考えるが、町長の見解は。

町長

地域おこし協力隊に応募する方もそれぞれ希望があるので、自治体との考え

が一致しなければ成立しなないと考えることから、町も受入体制を構築しなければならぬ。

また、移住するメリットを作っても、地域おこし協力隊だけの目的では長続きしないのが現状である。目的を提示していただき、それに合致した隊員に来てもらい、本町で暮らしていきたいと思えるような環境整備に取り組んでいく。

安心できる介護施策の実施を

町長

地域ケア会議を新年度から開始する

や資格を持たないボランティアなど、多様な担い手による多様なサービスをを行うとしているが、町はこの受入体制ができて

の介護予防ケアプランを作成するとしているが、社会福祉協議会や関係機関との連携は重要である

町長

①国が想定する多様なサービスの担い手確保は、本町のような小さな町では困難な状況であるが、活用が可能な団体等について、本年4月以降に設置する地域ケア会議の中で検討していく。

②新事業に移行することにより、既存のサービスに加えて、多様なサービスが民間企業、NPO、ボランティアなど、多様な主体により提供され、利用者がその中からサービスを選択可能となる。

本町の場合、多様な主体の確保は困難であるが既存の介護保険サービスの維持に努め、多様なサービスを模索していく。

上村

4月以降に設置する地域ケア会議の構成メンバーは決定しているのか。

ほけん課長

まだ決定していないが、町職員、包括センター職員、町の事業所のケアマネジャー、介護事業者、医師、歯科医、看護師、管理栄養士等を考えている。

上村

構成メンバーがまだ決定していないことに対し、先が不安になる。地域支援事業は、地域の力も借りなければならぬ事業に

町長

介護保険事業は、これまでも国の様々な動きに地方も対応している。今後、人口減少、高齢化がますます進むことが予想される中、地域の実情に合った町独自の体制を求められていることから、地域ケア会議を新年度から開始し、構成メンバーも選定する。

上村

①後志広域連合事業計画では、医療、介護、予防、住まい及び生活支援サービスの切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの構築を推進していくとされているが、実際は要支援1・2の人が受けている訪問介護及び通所介護を保険給付から外し、町の地域支援事業に移行するとされている。

全国一律の基準も廃止し、サービスは専門知識



上村智恵子 議員



介護の相談はこちらへ（役場1階）

総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

未来を拓く力になろう！

地域おこし協力隊

「暮れを暮らしたい」「地域おこしに関わりたい」
地域おこし協力隊は、都市部の人材を、
地域社会の新たな担い手として受け入れ、
地域力の充実・強化を図る取り組みです。

地域おこし協力隊とは…

地方自治体が、都市住民を受け入れ、地域の活性化や課題の解決、地域力の充実・強化を図る取り組みです。

地域おこし協力隊員になるには…

募集から開始までの主な流れは以下のとおりです。

①地方自治体による協力隊の募集情報を確認してください。

②活動内容や条件、待遇等は各自治体によって異なります。

③募集要項に基づいて応募し、面接や書類審査などがあります。

④面接や書類審査の結果、採用された場合は、採用が決定します。

⑤地方自治体から、活動開始の案内や活動開始の時期、活動場所、活動内容、待遇等が通知されます。

⑥地方自治体から、活動開始の案内や活動開始の時期、活動場所、活動内容、待遇等が通知されます。

⑦地方自治体から、活動開始の案内や活動開始の時期、活動場所、活動内容、待遇等が通知されます。

⑧地方自治体から、活動開始の案内や活動開始の時期、活動場所、活動内容、待遇等が通知されます。

⑨地方自治体から、活動開始の案内や活動開始の時期、活動場所、活動内容、待遇等が通知されます。

⑩地方自治体から、活動開始の案内や活動開始の時期、活動場所、活動内容、待遇等が通知されます。

総務省地域力創造グループ 地域自立応援課 人材力活性化・連携交流室 Tel: 03-5253-5394

制度についてはこちら… 総務省 地域おこし協力隊 検索



初の議会報告会を開催

町民に身近な議会を目指して

平成27年2月7日（土）仁木町議会初の取組み「議会報告会」を開催いたしました。当日は、町内外から51名の皆さまにご参加いただき、心より感謝申し上げます。



仁木町議会報告会

平成27年2月7日（土）
午後1時30分～午後3時00分
仁木町民センター交流ホール

- ◆当日の次第**

 - 1 開会
 - 2 議長挨拶
 - 3 議員紹介
 - 4 議会報告
 - 5 総務経済常任委員会
議会改革特別委員会
議会広報編集特別委員会
26年度予算特別委員会
25年度決算特別委員会
 - 6 その他
閉会

議会広報の発行
議会だより にき 第101号

- ☆平成26年度予算
- ☆平成26年度執行方針
- ☆平成26年第1回定例会審議結果
- ☆一般質問 4議員が出席
- ☆委員会活動報告
- ※常任委員会・常任委員会

議会広報の発行
議会だより にき 第101号

希望に満ちた未来へのまちづくり

～PowerPointで説明資料を作成～

初の議会報告会を開催するにあたり、報告内容について、種々協議を重ねてきました。

まず、議会について知ってもらうため、議会のしくみをわかりやすく説明した方がよいのではないかとこの意見から、映写機でスクリーンに議会のしくみを映しながら説明することにしました。

また、各委員会の報告方法も同様に、スクリーンを使用しました。

報告内容については、平成26年の委員会活動とし、各委員長が議会だより等を使用しながら、報告しました。

皆さんからのご意見

◆元の町議会のどこが問題なのかわからないが、議会報告会を開催したことは意義があります。今後継続し、内容を工夫し、町民との対話、情報の発信につとめていただきたいと思います。

◆町民を第一に、開かれた町政・町議会としていただきたい。町民が望むことを政策として、町民が住んで良かったと思うまちづくりを。

◆議員の仁木町の現状や経済活動についての議員活動や認識が欠如している。町職員の政策立案能力が無いに等しい。町民には、今何の為の議会か町行政かを厳しく批判する声が増しに大きくなっている。

（70代・男性）

◆町全体のビジョンをつくり、それに沿った議会活動をすべきであり、この視点からすると、報告会の真の意味がないと考える。再考を！

（70代・男性）

◆町民の声、要求をくみ上げることは、それを町政に反映させて、住民が主人公の政治を実現する上で大事です。そこで、その役割を発揮するのは町議会議員それぞれの固有の役割だと思います。個々の議員に報告会を促進させる何らかの取り決めなどが必要だと思います。

（50代・男性）

◆大変すばらしい報告会だったと思います。報告の中で、発音がはっきりせず、聞きにくい場面もありましたが、議員の方々が一所懸命取り組む姿に心打たれました。毎年開催されることを希望いたします。

（70代・女性）

皆さんからのご質問

Q 議会中継は、ユーーストリームやニコニコ動画などで配信すれば安価でできると思います。

（40代・女性）

Q 議会内容のネット公開体制を整備すべき。

（70代・男性）

A 議会中継につきましては、以前にユーーストリームの中継を検討した経過がございますが、セキュリティの問題等を鑑み、現段階ではネット中継はしないとの結論に至っております。

なお、議会内容は、会議録を議会ホームページに掲載し、公開しておりますので、ぜひご利用ください。

Q 全国どこでも町議会研修旅行があるが、遊びに行くのならやめてほしい。その研修旅行が町にどのように活かされるの

か疑問に思います。何も町民に活かされない研修は、時間・経費のムダのため、取りやめた方がよいです。

（60代・女性）

A この度の議会報告会では、時間の関係上、研修視察報告のみで終わらせてしまいましたことをお詫言申し上げます。

研修視察後には、各議員が研修視察で学んだことを本町の政策に反映させるため、一般質問において町長に対し、提言してまいります。

しかし、議会広報に掲載している一般質問及び研修視察報告は要約していることもあり、説明不足な点を反省しております。貴重なご意見を真摯に受け止め、今後に向けて研究してまいります。

※おことわり
ご意見、ご質問等の一部を抜粋して掲載させていただきました。

追跡 あれからどうなった？ 質問のゆくえ

議会だよりでは、定例会での一般質問や町民の皆さんからの請願・陳情を掲載していますが、町政にどう反映されたのかを追跡調査していきます。

地域おこし 協力隊の活用を 質問

戦い抜ける仁木農業を構想するには、新しい政策が必要と考える。

例えば、地域おこし協力隊を活用し、人口を増やすシステムを構築するなど、有利性のある事業を調査・研究すべきと考えるが、町はどう考えているのか。

(平成26年第1回定例会・一般質問より)

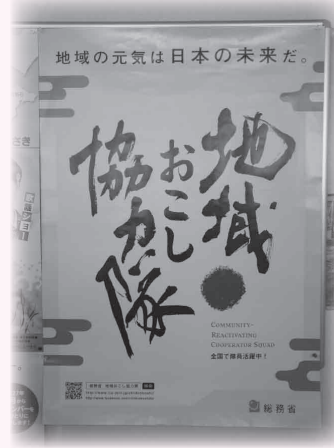


地域おこし協力隊の 活用を検討します 答弁

活用決定！ 現在 今年度から活動開始

平成27年度の当初予算に、地域おこし協力隊活動経費が計上されました。

また、町政執行方針において協力隊員を4月から募集し、7月から活動可能となるように関係機関と調整しながら取組むとの方針が示されました。



また、危険物倉庫は、RC造の平屋で、第4類第1石油類（ガソリン）の申請容量1500ℓ、第2類の石油類（軽油）の申請容量2000ℓとなっており、現在は、ガソリン1000ℓ、軽油600ℓを備蓄しています。

現在、町備蓄計画に沿い、約400人分（1日分）の食料を備蓄していますが、防災用備蓄倉庫が完成したことから、平成27年度以降に備蓄計画を改正する案を町防災会議に提出した上で今後検討していくとの説明がありました。

防災対策の充実で災害に強い町へ



◆所管事務調査

平成27年3月19日に防災用備蓄倉庫整備事業の調査を行いました。

この事業は、平成25年度に実施設計、26年度に新築工事及び連絡路新設工事と、2か年にわたる事業で、26年12月26日に防災用備蓄倉庫が完成しました。

備蓄倉庫は、RC造の平屋で、車庫A・B及び備蓄庫A・B・Cを備えています。

総務経済常任委員会

Assembly topic

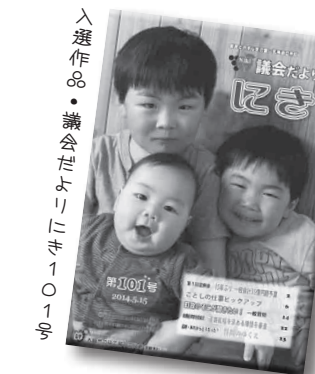
この度の入選に慢心することなく、町民目線の編集を心がけ、編集技術のレベルアップを目指し取り組んでいきます。



議員諸先輩方が町民の声に心え発刊された議会だよりは、今号で105号となりました。

この度、本町議会が発行する「議会だより」にき101号が、第29回町村議会広報全国コンクールにおいて、念願の入選（総合9位・優良賞）を果たしました。

平成23年8月に現体制となった議会広報編集特別委員会では、「町民に親しまれる議会広報づくり」を目指して、定例会のお知らせを掲載した。ぶち通信の発行や議員の似顔絵を採用したりと、議会広報に興味を持っていた。だけでなく、様々な取組みを実践してきました。



全国町村議会議長会では、「町村議会広報」の編集技術向上と紙面内容の更なる充実を目指すため、毎年、町村議会広報全国コンクールを実施しています。

議会広報全国コンクール 念願の初入選

Assembly topic

間、数々の要職を歴任。現在は議長として、議会運営に大きく寄与し、町の発展に大きく貢献したことが認められ、佐藤町長が北海道知事へ推薦しました。

12月17日、札幌市において、高橋はるみ知事より直接表彰状が手渡される予定でしたが、荒天の影響により表彰式が中止となったことから、第1回臨時会（平成27年1月30日開催）開会前に表彰伝達式を執り行い、佐藤町長より表彰状が手渡されました。



この度、山下敏二議長が永年にわたる議員活動における自治功労者として、北海道社会貢献賞を受賞されました。

山下議長は、平成3年の初当選以来、6期の永きにわたり、議会議員として町政に参画し、その間、数々の要職を歴任。現在は議長として、議会運営に大きく寄与し、町の発展に大きく貢献したことが認められ、佐藤町長が北海道知事へ推薦しました。

永年の議員活動に榮譽

山下議長に道社会貢献賞

SNSを活用し、町の情報発信を

船田さんファミリー（北町）

北町在住の船田貴志さんは三世大家族。奥様の安奈さんとお子さんの優奈ちゃん、ご両親の5人家族です。

◎お仕事は何をされていますか。
銀山学園で支援員をしています。両親は、農業に従事しています。

◎仁木の子育て環境はどうですか。
子育てしやすいですね。よい福祉会のおおきな木に行つて、ママ友ができました。いろいろ相談できるし、本当にありがたいです。

ただ、子育てしやすい環境ではあるけれども、出産しやすい環境ではないですね。近くで出産できる病院がないので、出産環境の整備をいち早くお願いしたいです。

◎町や議会に対して何か望むことはありますか。
情報提供の面を強化してほしいです。HPを見て情報を探してもらうよりも、SNS（ライン、ツイッター等）を活用して情報を流すべきだと思います。広報やチラシも良いけれど、若者はネットから情報を得る時代なので、時代に合った情報提供の方法を考えてほしいです。

若い世代にはSNSでの情報発信が良いのかもしれないね。貴重なご意見ありがとうございます。議会でも検討してみます！

（取材・インタビュウ 住吉英子）



紹介！町民の絆

ますのん

仁木町陶芸愛好会の皆さん



毎年、文化祭や町民センターふれあいホールで素敵な作品を出展されている陶芸愛好会の皆さんです。

陶芸愛好会は、昭和40年代後半に設立され、40年以上の歴史があり、昨年、永年にわたる功績が認められ後志管内教育実践表彰を受賞されました。

現在、会員数は15名ですが、多いときには30名近くいたそうです。

「若い人が入ってくれば良いんだけど、年々高齢化が進んでね」と、会長の茅野さん。陶芸愛好会には癒しを求めて入会する方も多いそうで、会員の皆さんはストレスもなくとてもお元気で、平均年齢72歳とは思えないほど、はつらつとしていらつしました。

陶芸愛好会の作品は、「やさすぎ焼き」と呼ばれ、多くの方に親しまれています。

皆さんも、日頃のストレスを忘れ癒しを求めて「やさすぎ焼き」にチャレンジしてみたいかがでしょうか。



（取材 住吉英子・上村智恵子）

次の議会は 6月定例会 (6月中旬を予定)

ぜひ傍聴に来てください

◆編集・発行責任者

議長 山下 敏二

◆議会広報編集特別委員会

委員長 住吉 英子

副委員長 嶋田 茂

委員 大野 雅義

委員 上村智恵子

寄附行為の禁止

議員は、選挙区内の方にお金や物を贈ることは、法律で禁止されています。また、有権者が求めてもいません。ご理解をお願いします。



北国特有の長い冬がようやく終わり、新緑がまばゆい季節となった4月24日、旧仁木商業高等学校に本校を移し、学校法人恭敬学園として新たにスタートした北海道芸術高等学校の入学式が執り行われました。

高校開校から3年後に、まさか高校が新たに開校するとは思ってもなく、本町にとって本当に喜ばしいことですね。生徒の皆さんには、スクーリング等で本町の特産物を堪能していただければと思います。

さて、年4回発行の「議会だより」にき」が、この度、全国町村議会広報コンクールで9位に選ばれました。今後も、議会活動をわかりやすく伝えていきたいと思っていますので、ご意見等をお寄せください。

〈大野雅義〉